

特定非営利活動法人(NPO法人) (通称: AAC21)

21世紀のカンボジアを支援する会

ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上 2-25-7-203
TEL 03-3991-2854 FAX 03-3557-1213
E-mail: info@aac21.net

【カンボジア事務所】 Phom Thmey, Sangkat Rokathom, Krong Chbamon, Komponspeu.
Kingdom of Cambodia
電話 (855) 12-737-559 (855) 78-784-808

【ホームページ】 AAC21 [検索](#)

【公式ブログ】 [メコンの風に吹かれて](#) [検索](#)

【Facebook ページ】 <https://www.facebook.com/aac21.net> [検索](#)

会報

幸福を、平和を、豊かな心を、 カンボジアの友と分かち合おう



アンコールワット

発行日 2014年(平成26年) 3月1日

第75号

(年6回 奇数月発行)



完成したトイレ棟の前で生徒たちと

二本松ロータリークラブが、カンボジアの 小学校に大型トイレ棟を贈呈

立派なトイレができました
一月十二日(十八日)、二本松ロータリークラブ(福島県二本松市・法人会員)の皆さんを中心に七人がカンボジアを訪問した。
一行は十三日、昨年も訪問したカンボ



壁にネームプレートが

ジアの小学校(ブレイベン小学校)を訪問、昨年の訪問時に要望のあったトイレ棟(四人用)を贈呈した。
同小学校にはトイレがなく、子どもたちは不自由な学校生活を強いられていたが、トイレが完成して子どもたちは大いに喜んでいました。
合わせて、生徒にボールペンと学校に教育資金を寄付した。
その後「夢ホーム」を訪問し、昼食を摂りながら子どもたちと交流、子どもたちにボールペン、衣類、あめなどを寄贈した。夢ホームには、子どもたちの教育資金を寄付してくれた。
十四日は、里子の家を二ヶ所訪問した。特に、二本松ロータリークラブの安齋秀雄さんが新規に里親になってくれ、この機会に里子の家を訪問したが、かなり遠方であったため、ホテルに戻ったのが午後九時を回っていた。
十五日(十六日)は「夢ホーム」に近い小学校で行なわれた桑原淑子さんたちの音楽指導の様子を見学、十七日(十八日)はアンコールワット観光などを楽しみ、その晩、帰国の途についていた。
今回は昨年の同時期に続き二回目の訪問、来年も訪問を予定している。

トントラッチ小学校の新校舎建設始まる

一月十四日、「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」(新潟市秋葉区・石川達夫代表)と「新潟発カンボジア支援プロジェクト730」(新潟市中央区・三林けい子代表)などによる資金協力のもと、カンボジアの小学校に新校舎を二棟寄贈することが決まり、一月十四日、着工式が行なわれた。
新校舎を建設することになったのは、トントラッチ小学校(コンポンチャム県スレイソン郡、生徒数二百三十人)。現在使用している校舎は一九八四年に村人が建てたもので、老朽化のため新校舎建設の要望が本会に出されていた。
着工式には、根岸理事長と本会会員の佐々木テルさんとその娘さんが出席。地元の僧侶が、工事の円滑な進行と立派な校舎が完成するよう、誦経した。
工事は早ければ五月に終了。七月の「ふれあいの旅」の中で贈呈式を予定している。



僧侶や地元民も出席

カンボジアと日本の関係を良好にしてくれた恩を忘れません

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸 恒次

一九九五年一月よりカンボジア大使館に勤務していた山本哲朗さん(本会理事、東京都西東京市在住)が、昨年十月末日に同大使館を退職した。御年九十一歳、十八年間勤務してカンボジアと日本を繋ぐ大役を終えた。出合いのきっかけは小さな新聞記事だった。
東京・赤坂にあるカンボジア大使館は内戦の影響で長期にわたり閉鎖していたが、一九九一年に紛争各派が和平合意、一九九三年に初の民主選挙実施後誕生した新政権が、一九九四年にカンボジア大使館を東京・赤坂に再開した。
初代大使として赴任したトウロ・メアリー氏のことが日本の新聞に掲載され、興味を持った山本さんが大使館を訪問、大使に会った。
大使から「日本人スタッフがいないので苦労している。大使館に来てくれませんか?」とラブコール。「私のような者でお役に立てれば」と大役を引き受けた。勤務と言っても大使館に給料を支払う余裕がなく、事実上ボランティア活動だった。
約十八年間の間、四人のカンボジア大使に仕えたが、初代大使のトウロ・メアリー氏とは今でも親交がある。元大使が用事で来日すれば、必ずお会いして食事会を催した。
山本さんが十八年間の思い出を話してくれた。
最も印象深かったことのひとつが、民間人で国際協力に貢献した人を表彰するメンバーに加わり一九九五年五月、シエムリアップの国王別邸でシハヌーク前国王(一昨年逝去)にお会いしたこと。
前国王が「あなたはいくつか?」



シハヌーク前国王(右)と握手する山本さん(左) 1995年5月17日、シエムリアップの国王別邸にて

いた山本さんは、首都圏の交通網がストップしたため自宅の西東京市まで、歩いて帰宅したそうだ。家に着いたのが午前二時だった。

その日、以前里親としてお世話したことのあるカンボジア人女性(カンボジア在住)が大使館に電話をかけて山本の自宅の電話番号を聞き出し、電話連絡取れずに不安だった山本さんの奥様に「ご主人は歩いて帰宅中なので、心配しないで」と国際電話してくれたそうだ。(国際電話は影響がなかった)
このエピソードを、大使館が主催してくれた山本の送別会で話したら、大使が「カンボジア人は一度受けた恩を忘れない民族です」と話した。
山本さんは、最近まで「日本カンボジア協会」の事務局局長を長年務め、戦後における日本とカンボジアの橋渡しをしてくれた。また、本会発足以来理事として、大使館と本会の繋がりを強固にしてくれた。今後は本会理事として、カンボジアと関わっていきたくと話している。
山本さんの労苦をねぎらうとともに、いつまでもお元気でいてほしいと願っている。

カンボジアの子どもたちをサポートしてください



里親さん、ありがとう

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、大多数の人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へ送れない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。
本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。
例えば69年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子ども達を支援する番です。
※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

- 【年会費】: 子ども1人につき、1年間3万円。一括納入、分割納入(毎月、年3回、年2回)のどちらでも可。所定の郵便振替用紙を使ってお振込みください。
- 【会費の用途】: 年会費の3分の1が、学用品、制服、靴などの購入、学校への納付金、お小遣い、生活資金など、子どものために使われます。年会費の3分の2が、夢ホームの運営、現地スタッフの給料・ガソリン代・事務所家賃など現地でかかる経費、通信費・印刷費・人件費など東京の本部でかかる経費として使われます。
- 【サポート期間】: 最低1年間単位ですが、少なくとも子どもが学校を卒業するまでの期間、サポートしていただけたら幸いです。里子からは年2回、近況を報せる手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。
- 【里子との交流】: 里親さんからの手紙、プレゼントも里子に届けることができ、心あたたまる交流ができます。

本会は皆様からの寄付金のみで活動しているNPO法人であり、現在公的資金(税金)は一切いただいておりません。



演奏を指導する桑原さん（右端）



講習会の模様

桑原さんら3人が小学校で音楽指導

一月十五日、ワットタコール小学校（コンポンチュナン県・生徒数=516人）に手押し式井戸が完成、贈呈式を行なった。寄贈してくれた後藤様ご夫妻（里親会員・千葉県松戸市）に代わり、根岸理事長が出席した。

カンボジアでは、都市部を除く大半の地域で水道が普及していないため、川や池の水を生活水として利用している。一つでも多くの井戸を村や学校に作るにより、子どもたちの水汲み作業が軽減されることになり、子どもたちは勉強に専念することができる。

日本宝飾クラフト学院（本校＝東京都台東区）の専任講師で、自宅に工房を持つ榎戸徹彦さん（横浜市、里親会員）が二〇一一年五月、夢ホームの中に「夢工房」を開設してはや二年半以上が経過した。講習会の回数も十五回となり、六人の生徒たちが榎戸さんの指導のもと、腕を磨いている。

作品を販売している「クマエ・ユーン」（シエムリアップ市内）という日本人経営の雑貨店から、イヤリングを欲しがってお客が多いと聞いたので、今まで作ることがないイヤリングを一人の生徒が作っている。他の生徒は、ワニ、鳥などのペンダント製作を続けている。

次回（第十六回）の講習会は、三月十八日～二十一日を予定している。

一月十五日、十六日、二本松ロータリークラブの皆さんと一緒にカンボジアを訪問した桑原淑子さん（福島県二本松市・里親会員）と、友人の青木さん、倉田さんの三人が、ワットタコール（コンポンスプー県）で、十五人の生徒と一人の先生を対象に鍵盤ハーモニカ（ピアノ）の奏法を指導した。

桑原さんは年に一、二回、カンボジアの小学校を訪問して音楽指導しているが、ワットタコール小学校は初訪問。今年十一月に再訪を予定している。

カンボジアの小学校は読み書きの学習が中心で、音楽、図工、体育などの科目がない。初めてピアノを吹いた生徒たちは、興味深く音楽の授業を受けていた。

1月はカンボジアの小学校に1基の井戸が完成

一月十五日、ワットタコール小学校（コンポンチュナン県・生徒数=516人）に手押し式井戸が完成、贈呈式を行なった。寄贈してくれた後藤様ご夫妻（里親会員・千葉県松戸市）に代わり、根岸理事長が出席した。



井戸水で顔を洗う生徒たち

〈お知らせ〉

井戸の建設代金について、最近の円安傾向のため、また現地の物価高騰により、1月以降に作る井戸代金を現行の16万円から17万円に値上げさせていただきます。皆様のご理解よろしくお願いたします。

1月に完成した井戸の内訳			
寄贈者名	小学校名・村名	生徒数・村民数	所在地
① 後藤雅之・豊子様	ワットタコール小学校	516人	コンポンチュナン県サマキンチエ郡

※通算の井戸設置数（2003年～）=239基（1月現在）

第十五回「鑄造によるアクセサリ作り技術講習会」(夢ホーム)

日本宝飾クラフト学院（本校＝東京都台東区）の専任講師で、自宅に工房を持つ榎戸徹彦さん（横浜市、里親会員）が二〇一一年五月、夢ホームの中に「夢工房」を開設してはや二年半以上が経過した。講習会の回数も十五回となり、六人の生徒たちが榎戸さんの指導のもと、腕を磨いている。

作品を販売している「クマエ・ユーン」（シエムリアップ市内）という日本人経営の雑貨店から、イヤリングを欲しがってお客が多いと聞いたので、今まで作ることがないイヤリングを一人の生徒が作っている。他の生徒は、ワニ、鳥などのペンダント製作を続けている。

次回（第十六回）の講習会は、三月十八日～二十一日を予定している。

児童養護施設《夢ホーム》日記

児童養護施設《夢ホーム》は両親や片親を亡くしたり、親がいても家庭的に恵まれない子どもたちの生活の場として、会員の皆様のご厚意により、2009年1月に建物完成、同年3月に開園しました。現在、5歳から18歳までの17人の子どもたちが入園、近所の小・中・高等学校へ通学しています。

二本松ロータリークラブ・桑原さんら一行が訪問



花笠音頭を踊る女性の皆さんと、くーちゃん お米、衣料品、お菓子などをいただいた。

1月16日、カンボジアを訪問中の二本松ロータリークラブ及び桑原さんら一行が夢ホームを訪問、昼食を共に歓談した。和服の女性陣と一緒に、くーちゃん（高2）が花笠音頭を踊った。一行から

ベンチセットをありがとうございました



庭に憩いの場ができました

根谷崎敏彦さんと米倉貴美子さん（ともに神奈川県藤沢市の会員）のご厚意で、ホームの庭にベンチセットが備えられた。子どもたちは木陰に設置されたベンチで宿題をしたり歓談して過ごしている。

パソコンスクールに通っています



真剣に学ぶ子どもたち

この程訪問した二本松ロータリークラブの皆さんから戴いた教育支援金により、高校卒業後の就職訓練の一助にと、高校生（6人）がパソコンスクールに通い始めた。カンボジアでも、就職活動には英語とパソコンが欠かせない。日本の皆さんからの支援が色々な形で生かされている。

ホームの庭はまるで果樹園



夢ホームの庭に植えたバナナの木が実をつけ始めた。マンゴウやパイナップルなども実をつけ、ホームの庭は果樹園みたいだ。子どもたちの美味しいおやつになっている。

◀実もたわわ

夢ホームの子どもたち

ルッス・ワンナー君（愛称=ワン君）

誕生日は1996年1月6日（18才）、コンポンスプー県ウドン郡出身。父死亡、母親のみ。兄弟はいない。

2009年1月、夢ホーム開園と同時に入園、現在高校2年生。午前中高校へ、午後は英語や数学の塾に通う。

将来はIT関連の仕事に就きたいという。働きながらの、進学を志望している。ホームではよきお兄さん役。



いかつい顔だが心は優しいワン君

書き損じハガキ・未使用切手・商品券をお送りくださいませんか
 本会では、年賀ハガキなどの書き損じハガキ・未使用の切手・ピルやデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたらご協力くださいますよう、よろしくお願致します。普通郵便で事務局へお送りください。

《お送り先》
 〒176-10011
 東京都練馬区豊玉上二の二十五の七の二〇三 本会事務局へ

コンポンチャム県の産物になっているアピン（くもの一種）、一匹五十円で販売していた。何でも食べるカンボジアの食文化、ほどほどにお付き合いを。



角田さん寄贈の校舎で授業を受ける中学生たち

二〇一三年十二月、角田由美子さん（東京都練馬区・里親会員）の資金協力により完成したサンポウミヤス小学校（プレイベーン県）を、根岸理事長とカンボジア滞在中の中野勝理事（兵庫県宝塚市）が訪問した。

七年ぶりに訪問したが、その発展ぶりに驚くとともに、最初に校舎を寄贈した角田由美子さんの先見の明に感謝している。

十年前、角田さんが校舎を建てた時は、老朽化した木造校舎だけだったが、その後三棟が建ち、生徒の数も増え、今は小学校（生徒数443人）と中学校（生徒数461人）が併設するマシモス校になっていた。角田さんが寄贈した校舎は中学校として使われていた。

七年前に訪問した時はメコン川をボートで下ったが、陸路が整備されたのでボートが廃止、メコン川には日本の支援による橋が建設中だった。（二年後に完成予定）

サンポウミヤス小学校を訪問

プノンペン市内に建設中のイオンモールがほぼ完成。三月にはテナントへ引き渡し、三ヶ月の準備期間を経て六月に開業予定。居酒屋大手のワタミが進出するほか、多数の日系店が出展するそう。

イオンモールが六月にオープン



地方の小学校を訪問したら、昼の給食としてトウモロコシの粉を配っていた。栄養補助食品として外国のNGO団体が支援しているという。日本の子どもたちも、外国からの支援品（給食の脱脂粉乳など）で育ったことを思い出した。

■目立つ中国支援

プノンペンの郊外にある気象台は、昨年、中国の支援により完成したそう。最近特に目立つ中国からの支援、プノンペンにいたりたら中国人が目立ち、日本の影が薄くなっている。

給食にトウモロコシの粉



里子家庭訪問記録

名前: ヴィチット・マラエン	学校名: トロバンクエク小学校
年齢: 7歳	学年: 小学校の3年生 性別: 女の子
住んでいる場所: コンボンスプー県 ウドン郡、クノッラムピル村	
学校までの所要時間: 徒歩で20分	
好きな教科: 国語(特に読解が好きです。)	
苦手な教科: 算数(特に算数の引き算を解くのが難しいです。)	
担任から一言: 成績は、道徳: A 健康: B 学校活動: A 出席: A	
家庭状況: 3人の姉妹です。お姉さん2人、ヴィチット・マラエンちゃんは第3子です。お父さんを亡くしています。お母さんがいます。現在、お母さんと3人の子供で暮らしています。	
一日の過ごし方: 朝5時頃に起きると、白いお粥を作ります。出来上がったら、家族と食べます。そして、身支度をし、学校に行きます。授業が終わってから家に戻ります。昼食の後、家事の手伝いをします。夕食は家族と6時半頃にします。寝る前に、本を読んだり、学校で勉強したことを復習してから10時頃に寝ます。	
好きな遊び: ゴム飛びをするのが好きです。	
好きな食べ物: 鶏肉、ロンガン(カンボジアの果物)	
将来の夢: 国語の先生です。	



お母さんと撮った写真です。

備考: ヴィチット・マラエンちゃんは、お母さん、お姉ちゃんと暮らしています。生活が大変なので、お母さんは縫製工場に働きに行きました。夜7時くらいに戻ります。雨季は縫製工場をやめて、田んぼで田植えをしたり、収穫したりします。お姉ちゃんは家事の仕事をします。学校も行きます。お母さんは「三人の子供達の将来のために、いくら自分が疲れても、大変なことがあっても、娘たちの顔を見て、必死で頑張ります。私は毎晩寝る前に娘たちを勉強させます。いつも、子供を応援しています。いつか私たちの生活はよくなりますよ」と言いました。

担当者: ニョウ・ピン(現地スタッフ)

里子家庭訪問記録

名前: スルン・サムナン	学校名: プレイトム小学校
年齢: 13歳	学年: 小学校の6年生 性別: 男の子
住んでいる場所: コンボンスプー県 ウドン郡、ヨトサムキーコミュニティ、トラッコン村	
学校までの所要時間: 徒歩で10分	
好きな教科: 国語(特に書き取りが好きです。)	
苦手な教科: 算数(特に分数の計算を解くのが苦手です。)	
担任から一言: 成績: A 道徳: A 健康: B 学校活動: A 出席: A	
家庭状況: 両親と暮らし、兄さん2人、姉さん1人、弟さん0人、妹さん0人で、スルン・サムナン君は第4子です。	
一日の過ごし方: 毎朝6時に起きて顔を洗い、お父さんと田んぼに行きます。11時半に家で昼ごはんを食べて、水を浴びて、学校に通っています。学校は午後1時から5時までで、終わってから、家に戻って、牛の糞を集めて、復習して9時に寝ます。	
好きな遊び: サッカーをすることです。	
好きな食べ物: 酸っぱいスープ	
将来の夢: 教師になりたいです。	



両親と撮った写真です。

備考: スルン・サムナン君は今年13歳で、プレイトム小学校の6年生です。家から学校まで友達と歩いて10分くらいかかっています。学校に着いたら、教室を掃除して、友達と復習しています。先生が説明している時よく聞いて、分からないことがあったら、すぐにききます。「サムナン君は毎日一生懸命勉強していますね。」と先生に褒められています。最後にサムナン君は「今まで私の勉強が出来るのは、里親様のおかげです。とくにそのことはいつまでも忘れられません」と言いました。

担当者: ヴォン・ロトボレイ(現地スタッフ)

クメール教育里親基金活動レポート

本会は、病気や事故、親の離婚などにより両親や片親を失い、経済的に困窮しているカンボジアの子どもたちが安心して学校に行けるようにと、二〇〇三年に「クメール教育里親基金」を創設、一月末現在、約三百五十人の子どもたちを教育支援している。

一月十四日、カンボジア訪問中の「二本松ロータリークラブ」に所属する安齋秀雄さんが新たに里親になってくれ、早



大学で学ぶコンサム君

速里子の家を訪問した。また、同行の桑原淑子さんも、里子の家を訪問した。現在プノンペン市内の大学で学ぶプロム・コムサン君は、一昨年高等学校を卒業したが、里親さんのご配慮で今も尚、生活支援という形で援助を受けている。機会があり、根岸理事長がコムサン君に本会事務所で面会した。昼間は縫製工場で働き、夜は夜間大学に通っている。専攻はマーケティング。住居は数人でシェア、家賃として三十ドルを大家に払っている。将来は大学教授をめざしている。

一月二十四日、夢ホームからさらに一時間半かかる山の中にある「タサル小学校」を根岸理事長が訪問、四人の里子に、里親さんからのプレゼントを届けた。この村はとても貧しく、標高が高いので井戸を掘っても水が出ない場所。本会は、こうした日のあたらぬ貧しい村を重点に支援していく方向である。

「画三証券アジア情報館」が写真展とセミナーを開催

十二月三日(十日)、画三証券アジア情報館(東京都港区虎ノ門)が同会場にて写真展「カンボジアの子どもたち」を開催、沢山の人が会場を訪れた。最終日(十日)には特別セミナーを開催、根岸理事長が「カンボジアの現状」について話した。

同館では、来館者から寄付を募り、今まで四基の手押しポンプ式井戸をカンボジアの小学校に寄贈した。現在、五基目の井戸建設に挑戦中。



写真を観る来場者

調布市内で写真展「カンボジアの子どもたち」を開催
十二月十四日(二十四日)、調布市市民活動センター(東京都調布市)において写真展「カンボジアの子どもたち」を開催、多くの調布市民の目にふれた。期間中、同市の隣に住む岡本浩史さん(狛江市、会員)が時折り顔を出してくれ、来館者の説明に当たってくれた。



会場の様子

政治デモと賃上げ闘争が微妙に絡んで



デモ隊の車両を取り囲む警察官

一月三日、カンボジアのプノンペン郊外で、賃上げを求めてストライキを続ける縫製工場労働者らに警察官が発砲、五人が死亡し数十人が負傷するという惨事が起きた。カンボジアでは縫製業は主産

業の一つだが、昨年末から約五百の工場労働者らが最低賃金大幅引き上げを求めるストを繰り返していた。現行では八十ドルの最低賃金を一気に百五十ドルへの大幅な引き上げを要求している。発砲により多数の死者が出たことに対し、米国防務省も声明で労働者側と政府の双方に自制を求めた。

カンボジアでは、昨年七月に行なわれた国民議会選挙に不正があったとして、野党側(救国党)が選挙の無効を訴えて、毎週のように抗議デモを行なっている。野党側は議席をホイコット、選挙から半年以上が経過した今でも、国民議会が開けない異常な事態が続いている。

国民が崇拜するシハモニ国王による仲介も、今のところ功を奏していない。さらに、政治デモと賃上げのストが微妙に絡んで様相は更に複雑化、カンボジアは大きな試練を迎えている。

一月三日の労働者側は、韓国が要請したものだといった疑惑も浮上してきた。韓国資本の企業が賃金の安い労働者を雇い、先進国向けに衣料品を大量生産している。デモが激化して賃上げが通れば韓国企業には大きな損失であるため、カンボジア政府に鎮圧を要請したという。

順調に経済発展してきたカンボジア、ここに来て大きな正念場を迎えた。混乱を避けて正常な政権運営を望む与野党(人民党)と、賃上げ闘争に不正選挙を絡ませて闘う姿勢を崩さない野党側(救国党)、国王の再仲介があるのか、しばらくは目が離せない情勢が続くようだ。(理事長のブログ「メコンの風に吹かれて」より)

恒例の忘年会を横浜のレストランで開催

十二月七日、恒例の忘年会をレストラン「サンアロハ」(横浜市中区)にて開催、十三人の会員さんが集った。レストラン「サンアロハ」は本会理事の平古場さんが経営、とても雰囲気の良い横浜では有名なレストラン。毎年第一土曜日の午後開催(今年は十二月六日)。



集まった会員の皆さん

トゥッサナー・カンボジア



フェリーの様子

一月二十一日(火)二〇〇三年に角田由美子さんが建てられたブレイン州サンボウミヤ小学校の校舎の使用状況の様子を見たり、校長と出掛けました。カンボジアの国道一号線はアジア・ハイウェイの一部として、

国道一号線 フェリーから橋へ

ホーチミン(ベトナム)ープノンペン(タイ)を結ぶ南部経済回廊の一部となつていますが、現在のメコン河渡河手段はフェリーであるため、繁忙期、特に、中国、ベトナム、カンボジアのお正月には最大7時間程の待ち時間が発生しています。そこで、国道一号線のネットワークとなっているメコン河の場所ネアックルンへの橋梁建設がJICAにより締結されました。

この橋梁の開通により、南部経済回廊を通じた物流・交通・交流などが円滑になり、カンボジア国内のみならず、メコン地域全体の経済発展が期待されます。かつて訪問した時は、フェリー乗りの下手から二度もボートでサンボウミヤ小学校に行ったのを思い出す。しかし道路が良くなり、今ではボートもなくなりました。(兵庫県宝塚市、理事・中野 勝)

カンボジア「三」ニュース

現地で発行している新聞や情報誌から、カンボジアに関するニュースを紹介いたします。

カ ンボジア政府高官は救国党の再選挙実施の要求を拒否。内務大臣で副総理のサルケン・リヤン氏は「向こう一二年間は再選挙の実施はない」と述べた。フン・セン首相の再当選について不正な選挙結果だと主張しているが、未だに明確な証拠は見つかっていない。ブレアヴィヒア寺院周辺地域の帰属が確定

国 際司法裁判所(ICCJ)は、ブレアヴィヒア寺院が建つ高台部分の土地は、カンボジア領であるとの判決を下した。さらに、周辺地域でのタイ軍の駐屯も禁止された。しかし、今回の判決では国境線についての判決は下されていない。

日 本旅行者銃撃事件で二人を逮捕

九 月末プノンペンで発生した、日本人強盗事件の容疑者である、カンボジア男性二人が逮捕された。地元警察によると、別の窃盗事件で現行犯逮捕されたのち、再逮捕された。

日 本政府が新たな資金援助

本政府は、地雷の撤去・被害者支援プログラムの援助を三年間延長し、総額九百万ドルの助成を発表した。カンボジア地雷対策センターの報告では、昨年の一月から七月まで地雷や不発弾により、七十四名が死亡している

投稿

本会からの教育支援ボランティア「書写」の指導を終える

中野 勝

本会が日本語指導の支援を開始したのは二〇〇七年からでした。「第三回ふれあいの旅」で元教育大臣コル・ペン氏と夕食を重ねるうちに、大臣の経営する外国語特別コース・日本語コースへの支援を根岸理事長と私が出かけたのが始まりです。

バンニヤストラ大学の初級・中級・上級の三つの日本語コースは授業料が高く、学生の募集が思うよう出来ず、中止になるコースなどがあり、二〇〇九年にやむなく支援を中止いたしました。

そのころ名古屋大学大学院法学研究科が日本の法整備支援重点国であるカンボジアに二〇〇八年九月に、日本語での日本法教育を実現するため、王立法律経済大学内に日本法教育研究センターを開設しました。すでに、ベトナム2か所（ハノイとホーチミン）、モンゴル、ウズベキスタンが開校され、五番目でした。

バンニヤストラ大学から法律経済大学に指導が変わりましたが、当初は「日本文化」を指導していましたが、どうやら難しく…。また、当時、書写の道具が名古屋から送られてきましたが、指導者がいないということ、かつて中学生を指導した経験のある私が指導することになりました。

二〇一四年であしかけ六年間指導し、一期生～五期生まで指導したことになります。続く限りカンボジアへ教育支援するつもりで訪問を繰り返していましたが、「こ



2年生



3年生



4年生

んなに日本と違うカンボジア」の出版を機にして、今回をもってカンボジア訪問の教育支援ボランティアを閉じることに決めました。

理由には大きく三点あります。一、平成二十六年の新年には七十四歳を迎えました。心身ともに若干厳しくなつて参りました。

二、法律経済大学の学生に6年間書道を指導しました。1期生、2期生の女子学生二名が日本の法律を勉強するため試験に合格して名古屋大学法学部大学院生と研修生として留学していることなど。

三、年金生活で補助金なく、すべて自己負担でカンボジア訪問は大金であり、蓄財もかなり使い、余裕も少なくなりました。カンボジアで大勢の方と知り合いになり、今後は、教育支援として年何回と決めて訪問するのではなく、ふれあいの旅に、そして機会と健康に恵まれた時に、皆さんとお会いすることを楽しみに出かけてみたいと考えました。

前回の習字指導のまとめで「書初め」は一期生、二期生には教えました。三期生以下に教えないことが分かりました。そのため、一月の早い時期に訪問しました。最終のことを連絡していますので一年生（六期生）には指導しないことにしました。

また、指導に使った手本（教科書）や道具は全て寄贈してきました。特に、文鎮は尼崎市立小園中学校の小原先生に寄贈していただきましたので、若干心苦しく思いました。

健康な時に終えることの大切さもよくわかりました。「一刻感謝」の心境です。今回の様子をお知らせして、本会からこの大学への教育支援を閉じさせていただきます。

（兵庫県宝塚市、理事）

中野勝さんの著書をお分けいたします



このほど、本会の理事、中野勝さん（兵庫県宝塚市）が書籍「教育支援ボランティアからみた大地と河と天の恵みの国―日本とはこんなに違うカンボジア―（A5判・二百三十五頁）は、中野さんの教育支援活動を中心に、カンボジアについてわかりやすく解説しています。中野さんが本書（十五冊）を寄贈してくれましたので、会員の皆様にお分けいたします。但し部数に限りがありますので、ご希望の方は三月十五日までに事務局へ一報ください。（電話・ハガキ・メール・ファクスにて）

希望者が多い時は抽選させていただきます。（送料として二百円分の切手をご負担ください）

一月のカンボジアは寒かった!?

一月も、大勢の会員さんと共にカンボジアを訪問した。二本松ロータリークラブ、桑原淑子さんとお友達、佐々木テルさん親子、中野勝さん、榎戸徹彦さん。それぞれ目的を持ち、真摯に活動してきた。

一月の日本は厳寒だが、カンボジアも負けじと低温だった。カンボジアには乾季と雨季しかないと思っていたが、緩やかな春夏秋冬があるのでは？と思うほど、日本人にとって涼しく快適だった。道路に設置したデジタルの温度計が、

朝方十六度を示していたが、カンボジア人はがオーバードライを羽織るほどの寒さだといふ。夢ホームの園長さんが分厚いコートを着ていたの聞こくと、近年にない寒さだそう。異常気象なのだろうか。

カンボジアは十一月～五月が乾季、滞在中、一滴の雨も降らなかった。そのた



中野理事（左）現地スタッフたちと会食

活動に参加しませんか

ボランティアとして

学用品を現地の学校で配布したり、子どもたちと交流して下さるツアー参加者を募集しています。ツアーは、年三回実施しています。

クメール教育里親基金

農村の貧しい子ども達が学校に行けるようにと教育資金をサポートして下さる里親会員を募集しています。サポート金額は年間三万円（分割も可）です。

会員として

- ・個人会員（年額一〇五〇円）
- ・法人会員（年額一〇一〇万円）
- ・里親会員（年額三万円）
- ・会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。会費の送付は、郵便振替、銀行振込み、現金書留で。（郵便振替口座番号）
- 21世紀のカンボジアを支援する会（口座番号）
- 0013000160916
- ※銀行振込をご希望の方は事務局へ一報ください。
- ※郵貯銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へ一報ください。

めどこへ出かけてもほこりっぽく、喉を傷めてしまった。乾季のカンボジア訪問は、うがい薬とマスクが必要なアイテムだと再認識した。

相変わらず交通事故が絶えない。目の前人が轢かれる現場を見た。交通渋滞も半端ではない。狭い路地に迷い込んだら、抜け出すのに一時間かかった。「ゆずれ！そっちこそ！」とドライバー同士

の怒鳴る声、やたらクラクションを鳴らす習慣、カンボジアへ行くに忍耐強くなる気がする。まさにアジアの喧騒だ。こんな光景もあった。レストランで食事していると、注文した料理が遅い

物に火をつけた。日本なら警察が来て即逮捕だが、その後店長がなだめに入り、やっと落ち着いたようだ。イライラする人が多くなった。

カンボジアへ通い始めて十八年、随分変わったと思うことあれば、相変わらず貧しい農村、スラムもある。あと何年カンボジアへ行けるのか？「もう年だからそろそろ卒業したら？いや、まだやること山積みだ！」と二つの心が絶えずぶつ

真珠のように輝く子供たちの瞳に出会ってみませんか？
「夢ホーム」で子どもたちと楽しい交流・里子の家庭訪問・感動的な校舎と井戸の贈呈式など
第27回カンボジアふれあいの旅 参加者募集

本旅行は観光旅行では味わうことのできない現地の子どもたちとの交流をはかることができます。

特に本会が運営する児童養護施設「夢ホーム」の子どもたちが皆様をお待ちしております。あわせて、校舎や井戸の贈呈式に参加でき、思い出に残る充実した海外旅行を楽しむことができます。旅行代金も格安に設定しましたので、お気軽にご参加ください。

なお、11月に実施する「第28回カンボジアふれあいの旅」でアンコールワット観光を予定しておりますので、今回はございません。

また、募集は原則として本会会員を対象にしておりますので、会員以外で参加される方は、事前に会員登録（一口5,000円）が必要になります。

【旅行期間】 2014年7月9日（水）～15日（火）（5泊7日）
【募集定員】 最少催行人員10名様（定員＝20名）
最少催行人員に満たない時は中止になる予定です。
【滞在ホテル】 ミッタピアアップホテル（ブノンベン）5泊
【利用空港】 成田空港および関西空港など
【旅行日程】 9日＝成田空港・関西空港などから乗り継ぎにてカンボジアのブノンベン国際空港へ。
10日＝教育支援する里子の家を訪ねる
11日＝小学校を訪問、校舎贈呈式と井戸贈呈式
12日＝自由行動
13日＝夢ホーム訪問、セントラルマーケットで買い物
14日＝ブノンベ市内観光後、夜8時頃チェックアウト⇒ブノンベン国際空港から帰国の途へ（空港にての現地解散になります）
15日＝早朝、成田・関西空港などに到着
【旅行代金】 15万円を予定。＊現地までの航空券代、空港税、ビザ申請代、現地での宿泊代、食事代、車代など、旅行にかかるほとんどの費用を含みます。＊1人部屋希望者追加料金5泊で12,000円。＊傷害保険は各自でおかけください。
【締切日】 平成26年5月10日（土）

お問い合わせ・申し込み
旅行企画☆特定非営利活動法人 21世紀のカンボジアを支援する会
〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203 TEL: 03-3991-2854
E-mail: info@aac21.net http://www.aac21.net FAX: 03-3557-1213

事務局便り

■第二十六回カンボジアふれあいの旅（三月五日～十一日）は、最小催行人員に満たなかったため、会員参加の旅としては中止になりました。しかし、井戸贈呈式など会として行なうことが沢山ありますので、理事を中心に四～五人のメンバーで渡航いたします。

七月の「第二十七回カンボジアふれあいの旅」は会員さんが多数参加される予定です。

■前号にてお願いしました「お年玉募金」ですが、おかげさまで四十万二千五百円（二月十五日現在）の募金が寄せられました。現地で使用する新車両の購入資金の一助とさせていただきます。ありがとうございました。

三月～四月の予定

- 会報「アンコールワット」三月一日付け第七十五号発行
- 第二十六回カンボジアふれあいの旅（三月五日～十一日、役員中心に）
- 國學院大学、神戸ユニネスコ協会、宮川公子さんカンボジア訪問（三月中旬）
- 第十二回定期総会（四月五日、午後二時～四時、練馬文化センター会議室）